**№54　テーマ『成功への鉄則』後半**

**講話日2012年7月9日**

**それでは後半の話になります。**

**今は第一番目の鉄則、一番重要な課題なので時間をかけて申しましたけど、あと後半の時間で2、3、4、5とお話をしたいと思います。次は「自分で自分を教育する」。これは自己実現という人生において自分が納得できる結果を出そうと思ったならば、人に教えてもらったり助けてもらったりという状態ではなくて、自分が気に入った、自分が理想とする状態に自分自身を教育して成長させていくというような意識を持った生き方をする必要がある。自分で自分を教育する際に三つの重要な課題があります。自分で自分を教育する。自分で自分を気に入った自分にしていって、自己実現を達成する。まず1番目に大事なことは、理想を持たなければならない。目標を持たなければならない。自分自身で向かっていく方向性を決める。理想、目的を持たなければならない。理想、目的というものはついつい理性で考えてつくってしまう人が多い。理性で考えた目的を持ってしまったら人生は苦しい。理想、目的といえども、欲求と結びつかないと命を輝かせるような、命が喜ぶような人生は生きられない。理性で目標や計画をつくってしまうと、いざその計画を実践しようと思った瞬間から、我々は計画に縛られて堅苦しい、窮屈な辛い苦しい人生絵が始まる。人生の目的が欲求と結びついたとき、人生は自分のしたいことをするということになってくる。そのことによって、我々は生きがいと喜びと自由と開放感があるしたいことをするという人生を送れて、人生の辛さから解放されて喜びながら、楽しみながら人生を生きていける。そのためにどうすれば欲求としての目標、理想をつくれるのかが大事な課題となってきます。理想、目標のつくり方というのは、わからないがために自分の命が喜ぶ理想を持って人生を生きることができない人が多いです。どのようにすれば、我々は喜びを持って、生きがいを感じながら人生を生きていけるか。**

**そのためには、我々が私・俺・自分と言っているものは、欲求のことなんだということをちゃんと知る必要があります。欲求がないというのは、私・俺・自分がないということなんだ。欲求がない人というのは、他人に言われたことをさせられてしまう。これは奴隷だ、家畜だ。人間が人生を生きるためには最低限度、自分の肉体だけは意志と決断で動かさなければならない。自分の肉体は人の意志で支配されれば奴隷。そうしないためには、欲求を持って生きることが大事になります。自分の肉体を自分が支配するという、自分の肉体は自分を動かすという主体的な生き方をするためには、我々は何かしらしたいことがある、欲求を持って生きるということが大事です。しかし、うっかりすると動物的次元の欲求になっていしまいやすいので、人間的な欲求を持たないと人間的な価値ある人生は歩めません。人間的な価値ある人生を歩むためにはどうするか。理性を手段能力に使って、自分の命に問いを発する。それは三つあって、どんな問いか。**

**どんな人間になりたいのか。どんな仕事がしたいのか。どんな生活を将来したいのか。この三つの問いが人生を価値あるものとして生きるための基本であります。人間なのだから、どんな人間になりたいのかを自分で決めなければならない。自分を自分で教育しようと思ったら、俺はこんな男になりたいという人間像を決めなければならない。まずは、自分自身に対して理性で問いを発する。どんな人間になりたいのか。そういう欲求を命から引っ張り出す。本当に自分がこうなりたいと思ったら、そうなれるように生きることが自分の幸せであり、また自分の喜びであり、生きがいになるわけです。どうなりたいのかが出てこなければ、自分探しをしないといけない。そのため**

**に小説を読み、ドラマを観る、人と会うなどして、「俺はどんな男になりたいと思っているのか」を引っ張り出すための努力をしなければならない。自分のなりたい男性像、女性像を探す。そのために頑張る。そこから自分で自分を教育する人生が始まる。まずはどんな人間になりたいのかを自分で決めなければならない。なりたい人間像を持つことが、自分の人生を生きるということなんです。欲求なしには自分の人生はありえない。理性というのは、皆に共通するものをつくる能力。だから、理性で考えた目標というのは本当の自分の目標ではない。理性的であればあるほど個性がなくなるんだ。本当の自分というのは欲求なんだ。本音、実感なんだ。自分の人生をつくっていこうと思ったら、自分の実感と本音と欲求を大事にする必要がある。だけども、単にしたいことをするというのでは、わがままであり、身勝手で自己中心的ということになってしまいますから、人間的な欲求を持って、欲求を実現するのが自己実現の人生です。人間なのだから、なりたい人間像を見つけてそうなれるように生きることが人生だ、ということをまずは考える必要があります。**

**次にはどんな仕事がしたいのか。「俺はこんなことがしてみたい」という欲求を持つということが大事なんですけども、だけど今この仕事、アサヒグローバルという会社に入って仕事をしていながら、「どんな仕事がしたいんや」と言ったって、ちょっと筋が違うので、大事なことは今自分のしている仕事というものの中に自分がしたい仕事を見いだしていかなければならない。今自分のやっている仕事を、したい仕事にする。そのためには今自分のやっている仕事はどういう社会的な意味を持っているのか。どれほど多くの人に要求されているのか。今自分のやっている仕事がどんなに素晴らしいことなのか。今自分のやっている仕事の意味や価値はどこにあるのか。そういうことを考えていく。そうすることによって今自分のやっている仕事を自分のしたい仕事にしていくということが、大事な努力の仕方であります。そうすることによって自分で自分を教育する。今自分のやっている仕事を自分のしたい仕事にしていく。そこに自分で自分をつくっていく。自分で自分を教育していく。そして仕事の中に生きがいというものを見いだしていくという生き方ができてくることになるわけであります。どんな仕事でも他の仕事には置き換え難い独特の価値がある。職業というのは、意味のない、価値のない職業はない。どんな仕事にも他にはない独特の意味と価値がある。そういうことが目覚めていくことによって、今の自分のやっている仕事を自分のしたい仕事にしていく。そこに人間の文化をつくる。そういう意味や価値をクリエイトしていく。そういう生き方があるわけです。人間というのは文化をつくる動物なんですよね。人間というのは自然の中で住んでいるんじゃない。人間は文明をつくり、文化をつくり、歴史をつくって、自分がつくった文明・文化・歴史の中で生きるというのが人間的な生き方なんですよ。単に仕事をしているだけじゃない。その仕事に意味や価値を見出して、意味や価値をつくり出して、意味や価値を自分で感じながら生きる。これが文化をつくる動物としての人間の生き方、具体的なやり方であります。とにかく、人間は社会的存在といって、仕事をしなければ生きる糧が得られません。人間にとって二番目の問題は、どんな仕事がしたいのかということになるわけです。社会的存在だからどうしても仕事をする必要がある。人の役に立つ生き方をする必要がある。それが仕事だ。**

**三番目は将来どんな生活がしたいのか。「俺は将来こんなリッチな生活がしたい」という何かしら自分の将来の目標というものを自分の命から引っ張り出す。将来そういう生活がしたいんだったら、じゃあそのために今何をしておかなければならないかがわかってくる。自分の将来の生活の理想がわかることによって、今の自分の生き方が決まるわけです。理想というのは先の話ではない。理想とは今を生きる力だ。夢や理想と言えども、それを考えているのは今生きている人間だ。**

**今生きている人間の頭の中に理想と夢がある。夢や理想と言えども現実である。夢や理想というのは、今を生きる力をつくる原理だ。そうでなければ、人間は今の辛さに押しつぶされてしまう。夢さえあったら、我々は苦しみに負けることなく現実を生きていくことができる。そういう力が湧いてくる。夢がなかったら今の辛さに押しつぶされてしまう。夢さえあれば今の辛さに耐えられる。夢とは今を生きる力だ。理想とは今を生きる力だ。その上で我々は将来どんな生活がしたいのかという観点から、自分が目標とする夢や理想を思い描いて、そしてそのことによって今を生きる力というのをつくっていく必要がある。多くの人がそういう夢とか理想とかを持つことができなくって、そして今の仕事や生活の辛さに押しつぶされて、人生を絶望するということにもなってしまいやすいんですよね。残念ながら一般的に言って、今の人類は未来に壮大な理想を掲げて生きるという力をなくしてしまった。今の世界には理想はない。今の日本にも理想はない。こういう国をつくろうという理想はない。こういう世界をつくろうという理想はない。理想を見失って、目の前の問題に打ちひしがれて、そして苦しんでいるというのが今の世界の現状であり、今の日本の現状だ。**

**だけども、本当に今の辛さ、苦しみ、悩み、問題というものを乗り越えていこうと思ったならば、原理として方法論として我々は未来に壮大な理想を掲げることが、今の苦しみから脱却していくための大事な方法論なんだ。だけど今の世界にも日本にも理想がない。だから今の問題をブレイクスルー、突破できないんだ。そして目の前の問題に煩わされて、迷っているのが現状であります。理想がないと出てくる問題の後を追って「どうしたらいいんだ、どうしたらいいんだ」と生きるという問題の連鎖から脱却できないんだ。問題がなかったら何もしない。問題が出てきたらどうしたらいいかを考える。科学的な因果論的な生き方をしていたのでは問題の連鎖から脱却できない。問題の連鎖を断ち切って、因果のしがらみを断ち切って、そして現実から理想へと舞い上がるという希望ある生き方をしようと思ったならば、我々は未来に理想を掲げて、現実を生きる必要がある。そうすることによって、今ある問題の中のどれが大事な問題で、どの問題を放っておいて良いのかがわかる。問題に対する取捨選択ができるようになる。今の問題の連鎖からブレイクスルーして、理想へと現実を近づけていく道筋が開けてくるんだ。理想がないと、今ある問題の価値判断ができない。そういう意味でも理想というものを明確に掲げながら、実現するにはどうしたら良いのかという生き方をしていかなければならない。生きるとは、現実を理想へと近づけることだ。理想がないと問題に押しつぶされてしまう。今まさに日本の政治がそういう状況ですよ。また世界の経済状況もそういう状況なんだ。明確な理想がないがゆえに、どういう法則を立てて現実を動かしていったら問題を乗り越えられるのか、という道筋が見えてこない。ただただ問題に対処する対症療法で終わってしまっているんだ。まず自分で自分を教育するという自己実現の生き方をしていこうと思ったら、まず理想がなければならない。理想は欲求として持たなかったら人生は苦しくなる。欲求として理想を持つことによって人生が楽しくなる。したいことをするんだから、それほど楽しいことはない。この違いをちゃんと押さえてもらいたい。とにかく目標と欲求を結びつける。欲求して初めて行動力が出てくる。欲求が出てこないと行動は止まるんだ。命から欲求が湧いてくると行動するんだ。行動力、実践力は欲求によってつくられる。まず、欲求として理想を持つということを考えて、そういう理想の持ち方というものをぜひ実践してもらいたいと思います。**

**自分で自分を教育する第二番目の原理は問いを持つこと。自分の命から湧いてくる問いを持つ、問題意識ですね。問題意識を持つこと。それによって人間は成長することができる。答えを見いだ**

**す努力が成長する道をつくってくれる。問題が無かったら何もしませんからね。問題が出てくるにはどうしたらいいかを考える。問題があることが大事なんだ。どういう問題を持つか、どういう問題に気がつくか。そこに自分の成長の方向性が出てきます。仕事をしながら出てくる問題というのは現実への違和感が多くて、ここんとこ具合が悪いなとか、ここんとこなんかもうちょっと便利にならないかなとか、もうちょっとぴったりこないな、なんかちょっと納得できないなというのが、問題意識として出てきやすいんですね。そういうのを現実への違和感と言います。それは一体何なのか。もう少し改善したいなと思っていることを自分が納得できるところまでにしていくことが、君がこの時代に生まれてきた仕事なんだ。君がなんでこの時代に生まれてきたのか。そのことをするためなんだ。君がこの時代に生まれてこなかったらその問題には当たらなかった。それこそまさに君の出世の本懐を遂げる大事な仕事なんだということを教えてくれている。それが現実への違和感という問題意識の意味なんです。そういう受け止め方をすることで我々は、現実への違和感という問題意識を持つことによって自分で自分を教育していく、つくっていく、育てていくという生き方ができることになるわけです。**

**第三番目は、人間としてもっともっと成長したいという意欲を持つこと。それがなければ、人間として生きる意味がなくなってしまう。我々は死ぬまでもっともっと成長したい、という成長意欲を持って生きるということが人間としての人生を生きることであって、それなしで単に生きているだけでは動物だ。動物はもっともっと成長したいとは思わないんですよ。人間だけが不完全でありながらも、完璧を目指す、絶対を目指す。そういう意識を持っていて、そのことによってもっともっと成長したい気持ちが湧いてくるというのが、人間的な人生の生き方の大事な原理であります。不完全でありながらも完全なるものを目指す。人間にしかできない生き方なんだ。自分自身がもっともっと成長したいと思うのは人間だけなんだ。犬や猫はそういうことはしない。もちろん、訓練されていろんなことができるようになっていくことはありますけど、自分からもっともっと成長したいという意欲は人間以外の動物は持ちません。人間らしい価値ある人生を生きていこうと思ったら我々は、命が絶えるまで人間としてもっともっと成長したいという気持ちを持って、自分で自分を育てていくという気持ちが大事であります。人間的な成長には両面があって、能力の成長と人間性の成長があります。能力の成長というのは、ある程度年齢によって陰りが出てくる。83歳までが能力の成長の限界だと言われているんですけども、人間性の成長は死ぬまで心がけ次第では成長させることができます。そういう意味でも人間としての成長意欲というのは、能力における成長と人間性における成長の両面を考えなければならない。能力においても人間性においてももっともっと自分は成長したいという気持ちを持つことが、人間としての成長意欲の内容であります。とにかく、自分で自分を教育していくためには、理想と問題意識と成長意欲の三つが必要である。**

**次に成功の人生を歩んでいこうと思ったら、第三番目に限界への挑戦。今自分の持っている力の限界に挑戦する。今自分の持っている気力の限界、体力の限界に挑戦する。限界への挑戦をすることによって、初めて本当の成長・発展というものが生まれてくるわけであります。会社の仕事においても技術においても、今自分の持っている力でできることをしている限りは成長がない。今自分の持っている力でできないことをできるようにしていくことに成長がある。これは限界への挑戦という生き方である。今できないことをできるようにしていく、これが人間においても会社においても発展していくということのためになくてはならない意識です。限界への挑戦をすることによって、初めて命に潜在する能力が湧いてくる。そういう構造が命にできるわけです。人間には**

**潜在能力という生まれながらに命に与えられている力がいっぱいあるわけです。人間も先ほど申し上げたように宇宙ですからね。人間も大宇宙の一部を占める存在である。人間の命の中には宇宙がある。自分自身が宇宙の一部ですから、自分自身の中に宇宙の力が全部詰まっているんだ。自分の肉体をつくってくれている物質は、宇宙の中にあるあらゆる要素が全部入っている。自分の命の中には宇宙の力が宿っているんだ。だから、自分の生き方次第では、宇宙の力を自分の命から引っ張り出して顕現させて、それを使って生きていくこともできる。それほどの無限の力が宇宙には内在するということなんです。基本的に潜在能力と言われているものが人間には存在します。**

**潜在能力というのは遺伝子が具体的な内容になるわけですけど、まだ人間というのは命に与えられている潜在能力、遺伝子の一割ぐらいしか使っていない。遺伝子研究で有名な村上和雄先生の話を聞くと、「まだ3%ぐらいしか使ってないよ」とおっしゃるんですね。生まれながらに自分の命に与えられている潜在能力の90%以上もまだ使われないまま残っている。どうしたら潜在する能力が出てきて、今できないことができるようになり、確実に自分の命の自己実現という道を歩んでいけるか。そのためにはただひとつ、限界への挑戦しかない。今自分のできないことをできるようにしていくと、今自分の持っている力でできないんだから、ということでその問題を解決する力が命から湧いてきて、そしてその問題を乗り越えさせてくれて、結果として自分が成長し、時代が前に進んでいくことになっていくわけです。限界への挑戦という言い方をすることによって、潜在能力が引き出されてくる構造が命にできるんです。ほとんどの人が今自分の持っている力でできることしかしようとしないで、今自分の持っている力でできないことはできませんと言って、断ってしまうというのはそういう生き方をしてしまっている人が多い。であるがゆえに、なかなか新しい力、時代を前進させる、歴史をつくっていく力というのは、出てこないんですよね。そういうことになってしまう原因のひとつに、我々はあまりにも理性能力に頼りすぎるんですよね。能力と言えば理性だと思ってしまって、いろいろ考えて万策が尽きたとなると、やめてしまう…。だけど、理性能力とはどういう能力なのか。他人がつくった知識や技術を学習して覚えて、自分のものとして使ってるのが理性の具体的な姿です。**

**我々が使っている理性能力というのは、他人がつくった知識や技術や言葉を覚えて、学習して使っているのが理性能力の現実の姿です。ということは理性はパクリなんですよ。本当の自分の力ではない。他人がつくった知識や技術を駆使していろんなことをするわけですけど、その他人がつくった知識や技術ではなんともならんという状況に陥って、だけどもなんとかせんとやっていけないという切羽詰まった状態で限界への挑戦という場面が出てくる。そうなって初めて、誰かつくったものを学ぶんじゃなくて、自分の命からその問題を乗り越える力が湧いてくるという状態になります。ここから本当に俺の力で生きる俺の人生が始まるんですね。限界への挑戦という生き方を覚えることによって、本当の自分の力で生きる自分の人生というものが始まる。自分の人生の出発点に立てる。理性で生きている限り、それはものまねであり、まだ本当の自分の力で生きる人生ではない。まだパクリの人生だ。**

**俺だけの個性ある人生。そういう人生を生きていこうと思ったら、命から問題を解決する能力が湧いてくるという体験を持って、初めて俺の力で生きる人生の門出に立てることになるわけです。そういう意味で自己実現という本当に俺らしい人生をつくっていこうと思ったら、我々は理性に頼るんじゃない。もちろん理性でいろいろ考えないとダメなんですけど、理性でなんともならんとなっても諦めたらダメ。そこからが本当の俺の人生の本番だ。理性でなんともならん、だけど何**

**とかしたいと思っていると命から、その問題を解決する力が湧いてきてくれる。自分の命から湧いてきた力なんだから、俺の力なんだ。そこから俺の力で生きるという自分独特の誰にも真似ができない、俺の人生というものが始まる。**

**人間には顔が違うように、自分に与えられた個性ある能力が皆あるんですよね。顔が違うというのは、自分には他の人間ができない何かができる。俺にしかできんことがある。というのが顔が違うことの意味。顔とは能力の表現だ。顔の形を決めるのは遺伝子だ。遺伝によって顔の形は大体決まってしまう。では遺伝子とは何か。能力が物質化したものなんだ。それにより人間の顔は決まり、その顔の形は全人類皆違う。顔が違うということは俺には俺独特の能力があるんだということを顔は証明しているんだ。だから、我々はこの自分の顔を生ききれば、確実にオンリーワンかナンバーワンになれる。俺にしかできないということをやって、オンリーワンで世界にたったひとりという人間になれる。我々はこれからナンバーワンを目指すのではなくて、世界初というものを目指さなければならない。こんなことをやったのは君が初めてだ、と言われるような、そういう自分独特の力を発揮して生きるということが、これからの時代において大事だ。個性の時代、競争してナンバーワンになるよりも、世界一よりも世界初という仕事をしなくてはならない。そのためには、自分にしかない個性ある能力をどのように引っ張り出すかが課題です。そのためにも我々は限界への挑戦をしなければならない。だけども限界への挑戦というのは、問題や悩みに挑戦していく、どうしようもないことに立ち向かっていくということですから、非常に辛いし、苦しいこと。だから、ついつい今できることしかしようとしないという状態で終わってしまいやすいんですけど、それでは本当の自分は出てこないし、人生に面白みはないし、感動がない。平凡な人生で終わってしまう。もちろん平凡でもいいんですけど、やっぱり自己実現という俺らしい人生を生きることを望むならば、限界への挑戦ということを強く望むならば、限界への挑戦というのが辛くても必要なんです。限界への挑戦をする上で大事な生き方の原則は、逃げない。逃げたらいかんという生き方を自分に課していかなければならない。問題にぶつかったときに、ついつい易きに流れる。安逸を貪る…そういう状態になってしまう。それでは平凡で終わってしまう。本当に自分らしい輝きのある人生をつくっていこうと思ったら、問題や悩みから逃げない。そういう生き方をしなければならない。**

**問題から逃げたら本当の成長はない。本当の自分は出てこない。問題や悩みというのは自分を成長させるために出てくるんだ。問題や悩みは本当の自分の力を引き出すために出てきてくれるんだ。自分を成長させるために出てくる問題から逃げてどうするんだ。だけども、ただ逃げたらいかんというだけでは辛いかもしれない。逃げたらいかんという人生を本気で歩んでいこうと思ったら、大事になってくるのは問題には必ず答えがあるということ。答えのない問題はないということです。どんな悩みでも問題でも乗り越えられる。そういう原則を我々は知っている必要がある。多くの人が問題や悩みに挑戦しても答えが出てこないかもしれない、ダメかもしれないとやめてしまう。それは失敗の人生だ。本当に成功の人生を歩もうと思ったら答えが出るまでやめない、うまくいくまでやめない、成功するまでやめない生き方をする必要がある。問題には必ず答えがあるということ。答えのない問題はないということを知っていないといけない。**

**では、なぜ問題には答えがあると言えるのか。自分が今持っている力でなんともならんという問題は、自分でつくり出す問題ではなくて、母なる宇宙、天から与えられるもの。その問題はどこから出てくるかと言えば、人智を超えた計らいによって自分に与えられる問題なんだ。自分が今持**

**っている力でなんともならんという問題は、命に潜在する能力を引き出すために出てくるんだ。潜在する能力が出てくれば、その問題を乗り越えられる。潜在能力が出てくるということは答えが出てくるということなんだ。答えとは天から降ってくるものではない。あらゆる答えは自分の命から湧いてくるんだ。自分の命は宇宙だから、宇宙の力が命から湧いてきて問題を乗り越えさせてくれる。ではその生命から湧いてくる答えとはなんなのか。それは生まれながらに母なる宇宙から命に与えられている潜在能力。それが問題を乗り越えさせてくれる。ということは問題も答えも人智を超えた計らい、母なる宇宙から与えられるもの。問題と答えはリンクしている。問題が出てくる以前から、答えはある。答えのない問題は出てこない。宇宙と人間との命のつながりから見た場合の問題と答えの関係性なんです。どんな問題でも答えは命に与えられている。潜在能力だけが答えではない。宇宙のすべての力が命に宿っているんだ。だから遺伝子じゃない力も命から湧いてくるんだ。宇宙と繋がれば、我々は宇宙の力も自分のものにして人生を生きることができるという可能性があるんだ。これが命の底知れない力、魅力、凄さであります。答えが出るまで諦めたらいかん。これが成功の人生の最終的な秘訣というか原理なんですよ。うまくいくまでやめたらいかん。失敗は成功への確率を増やすんだ。失敗するたびに成功へと近づいているんだ。**

**だけど、自分ひとりの力では限りがある。だから、あとふたりの力を借りる必要があるんだ。三人の力で目の前の問題を乗り越えていく、これが不完全な人間が問題を乗り越えて、成長していく具体的なやり方であります。問題に当たったら、問題解決に必要な力を持ったあとふたりの人間を探し出してくる。それも自分の力ですからね。自分とあとふたり、つまり、三人寄れば文殊の知恵、仏の力に近づくという人生の生き方であります。とにかく、どんな問題でも答えがある。どんな悩みでも解決できる。うまくいくまでやめたらいかん。成功するまで頑張らんと本当の幸せは手に入らない。失敗した人は途中で止めた人だ。成功した人は成功するまで頑張った人だ。当たり前ではありますが、それが大事なことです。成功するまでやめない生き方をするためには、どんな問題でも答えがあるということを知っていないといけない。でないと頑張れない。限界への挑戦という生き方をするためには、この信念が大事になってきます。**

**次は第四番目です。決断に賭ける。人生は賭けなんです。人生は丁半博打なんだ。どうしたらうまくいくかと頭で考えても、そんなことはわかりっこない。人生は賭けるっきゃないんだ。人間は不完全ですから誰と結婚しても問題は出てくるんですよ。問題と悩みが出てこない人生はない。よく考えたら問題の出てこない良い結婚の相手が見つかると思ったらとんでもない、そんなことはない。誰と結婚しても問題は出てくる。自分が不完全であれば、自分の不完全であるがゆえの問題は、誰と結婚しても出てくるんだ。相手も不完全でお互いが不完全なんですから、必ず両方の不完全さに原因するところなんだから、問題は出てこざるを得ない。それが人生だ。どの道を選んでも必ず問題にぶつかるんだ。問題の出てこない道はないんだ。誰と結婚しても問題は出てくるんだから、どんな問題が出てきても「この人と結婚したからこんな問題が出てきたんだ。ひょっとしてあちらの人と結婚していたらこんな問題は出てこなかったのに」なんてことは考えてはいけない。それは迷いだ。理性ゆえの迷い。理性というのは問題が出てきたら「あ、間違えちゃったな」と思うんですよ。結局理性は問題の出てこない道があると思って探し求める。それは迷いだ。理性的に人生を考えれば、必ず悔いの残る人生になってしまう。そこで人生において大事なことは決断ということなんです。生きるというのは決断の連続なんだ。決断というのは多くの可能性の中からあるひとつのものを選び取るということにその出発点がある。だけども、決断とは選び取ることなんだと思ってしまっていると、まだ理解の仕方が浅いんですね。選び取るだけでいってしまう**

**と必ず迷いが出てきて、悔いが残る人生になってしまう。なぜならば、選び取るだけでいってしまうと必ず人生に問題が出てくる。問題が出てくる度に「この道は間違っていたのかもしれない。もっともっと考えたら良かった」という悔いが出てくるわけですよ。問題が出てくる度に反省しちゃったりなんかしちゃったりして、ついつい今の自分の選んだ道と違う道を考えてしまったりする。これは明らかに理性ゆえの迷いだ。誰と結婚しても、どの道を選んでも、問題や悩みは出てくるんだから、本当はどんな問題が出てきたってたじろいではならない。人生というのは出てくる問題を乗り越えるところに、人生の本当の道がある。理性で考えてしまうと、問題のない道を探し求めてしまう。明らかに理性ゆえの迷いだ。**

**では、本当に決断の人生を生きるとは、どういうことなのか。あるものを選んだならば、そのとき自分が選ばなかったものにどれだけ素晴らしいものがあったとしても、あるものを選んだならば、そのとき自分が選ばなかったものに対する思いを断ち切る、逃げ道を塞ぐ、退路を断つ。「俺にはこいつしかおらん」「俺にはこの道しかないんだ」という気持ちになることが決断なんだ。決断とは捨てる勇気だ。何を断ち切るのか。あるものを選んだならば、そのとき自分が選ばなかったものにどれだけ素晴らしいものがあったとしても、そのとき自分が選ばなかったものに対する思いを断ち切る。すなわち捨てる勇気。捨てる勇気のない人間は必ず人生において迷う。捨てる勇気のない人間は必ず人生において悔いを残す。本当に我々が幸せな人生、成功の人生を手に入れようと思ったら、この決断の人生、人生は賭けだという生き方を覚えなければならない。誰と結婚しても問題は出るんだ。だからどんな問題が出てきたって、誰と結婚しても同じなんだから、後はもう出てくる問題をバカになってしらみつぶしに乗り越えていく以外に生きる道はないんだということ。この腹が決まったときに、その人には本当の成功と幸せの人生が始まるんですよ。問題の前に立って、たじろがない、逃げない。そこから本当の人生は始まるんだ。**

**問題が出てきたとき「こんなはずじゃなかった」「失敗したな」と思ったら、迷いの人生。結局は平凡な人生で終わってしまう。本当に幸せを得て、本当に成功したいと思ったならば、我々は出てくる問題をバカになってしらみつぶしに乗り越えていく。この生き方を覚えなければならない。成功した人間というのは、問題を乗り越え続けた人間だけなんだ。問題を乗り越えられなくなったとき、そこでその人の人生は止まる。生きるとは問題を乗り越え続けることなんだ。その問題というのは、自分を成長させるために出てきてくれているんだ。決して自分を苦しめるためだけに出てきているんじゃない。会社において問題が出てくるということは、会社が発展するために今何をしなきゃいけないかを教えてくれている。それが出てきた問題の意味なんだ。導きとして問題は出てくるんだ。問題こそ成功への一里塚だ。だけど、多くの文化人が人生をどのように言っているかというと、誰と結婚するか、何を選び取るかによって人生は決まるんだ、と言っている。しかし、そうじゃない。人生というのは何を選び取るかによって決まるのではない。人生というのは選び取った道から出てくる問題を乗り越え続ける努力をするかしないかで決まる。誰をどれを選んでも50歩、100歩だ。だから、問題が出てこない道を探し求めてはいけない。大事なことは、自分が選び取った道から出てくる問題を乗り越え続ける努力をするかしないかだけで人生の幸せは決まるんだ、ということです。これもちゃんと理解していないといけない。それがわかることによって、人生の本道を歩む生き方ができるわけであります。決断とは捨てる勇気。何を断ち切るのか。あるものを選んだならば、そのとき自分が選ばなかったものにどれだけ素晴らしいものがあったとしても、そのとき自分が選ばなかったものに対する思いを断ち切る。すなわち捨てる勇気。人生というのは出てくる問題を乗り越えるところに、人生の本当の道がある。人生というのは選**

**び取った道から出てくる問題を乗り越え続ける努力をするかしないかで決まる。どちらにしようかと思っても、そんなものはどちらでもいいんです。どちらを選んでも問題は出てくるんです。とにかく一つに決めて、あとは出てくる問題さえ乗り越えたら成功するんだ。どちらでも大差はない。とんでもない大きな問題が出てきたら「困ったな」と思うかもしれませんけど、大きな問題を乗り越えたら大人物になるんだ。小さい問題しかなかったら小人物で終わってしまう。とてつもない大きな問題を乗り越えた人間だけが歴史に名を残す大人物になれるんだ。どんな大きな問題が出てきたって、ひるんではいけない。大きな問題、どうしようもない問題が出てきたときこそ、「天は俺を大人物にしようってか」と思って、喜び勇んで問題にぶつかっていかないかんぐらいの話なんです。大問題が出てきたから「これは困ったな」と言うのでは、これは覚悟が浅い。まだまだ。大きな問題を乗り越えちゃったら、もう大人物や、と。それぐらいの覚悟を持って人生は生きる必要があります。**

**最後の第五番目は「意味と価値の確認」。これが最後の締めくくりなんですけど、とにかく人生というのは、今自分のやっていることの意味や価値をちゃんと確認して、わかっていることが大事なんです。今自分のやっていることの意味を自分が感じてなかったら、意味のないことをしているんだ。今自分のやっていることの価値がわかってなかったら、その人は価値のない人生を生きているんだ。意味と価値を感じてこそ人生だ。なぜなら、人間の本質である心というのは、意味と価値を感じる感性だ。意味と価値を感じてこそ人間的な生き方になる。意味と価値を感じなかったらそれは動物的な人間以前の命の在り方だ。人間という生命が意味と価値を感じるところに人間的という生き方、人生は生まれてくる。意味と価値を感じて初めて命は燃える。意味と価値を感じてこそ人生だ。多くの人が仕事の現場では仕事があるからやっているという取り組み方です。特に意味や価値を感じながら仕事をしていることが少ない。ほとんどが惰性に流されて仕事をやっている状態になってしまいやすい。ここに仕事をしながらもその仕事がストレスになってしまうという原因がある。どんな意味があるのかわからんとなって、今やっている仕事に情熱が入らない。なんかこう打ち込めない。させられている状態で仕事をしてしまっている。自分自ら人生に意味や価値を感じないようにしてしまっている。これは近代人、我々が科学的理性の使い方にあまりにも支配されすぎてしまって、科学は事実を探求するんですよね。事実がわかったら満足するんですよ。**

**だけど人間の人生というのは、事実や情報や知識を持っただけでは、人間的な生き方はできないんだ。知識や情報や事実を知っただけでは、人間は知識や情報や事実に支配されてしまうんだ。我々が知識や情報や事実を支配して、人間的に価値ある生き方をしようと思ったら、知識や情報や事実は自分にとってどういう意味を持っているのか。自分にとってどういう価値があるのかを判断しないと、何を取って何を捨てるかができないんだ。生きるということは何を取って何を捨てるかということなんだ。同時に二つのことはできない。生きるということは常にひとつのことしかできないんだ。だから知識や情報や事実を知っただけで満足してしまったら、本当の人生を意味あるものにできない。価値あるものにできない。素晴らしいものにできない。情報に支配されてしまう、振り回されてしまう。情報化時代の落とし穴なんですよ。情報をたくさん持っているのは勝ちだというのは、これは科学的な人生に対する考え方。人間の人生は事実を知っただけで生きられない。生きるとは何を取って何を捨てるかだ。そのためにはあらゆるものが自分にとって俺にとってどういう意味があるのか。自分にとってどんな価値があるのかを知らないと、取捨選択はできない。だけど、そういう教育は学校ではしてくれない。どちらが良いかではなくて、知識**

**や情報は皆平等だと。選択の仕方を学校では教わらない。それがために知識や情報や事実に支配されて、結局奴隷のごとく使われるという人生になってしまっている人が多い。これが意味や価値を感じないで惰性に流されて、結果として仕事をさせられちゃう状態になってしまう理由なんですよ。**

**もっともっと我々は今自分のやっている仕事がどういう意味があるのか、今自分のやっていることが会社の中でどれほど重要な仕事なのか、もし俺がこれをしなかったら会社はどうなるのか。そういうことをちゃんと考えて、俺が今これをしているということは、会社全体にとってなくてはならない重要な仕事なんだ、という位置づけをちゃんとわかって仕事をしていれば情熱を傾けられるし、命を懸けられるかもしれないという覇気が出てくる。やりながら何のためにこんなことしてんのかわからんというのでは、自分もやりがいがないし、仕事にも熱が入らない。それでは会社全体の仕事というものの活力が低下するし、スピードも遅くなる。非常に大きなマイナス面が出てきてしまいます。もっともっと我々は物事の意味や価値や値打ちや素晴らしさや凄さを理性で考えて行けば、その意味というのは感性が感じるようになってくるんですよ。そうして感性が成長し、その意味を感じたときに命は燃え始める。自分をやる気にしていこう、情熱的な生き方をしていこうと思ったら、とにかく物事の意味や価値や値打ちや素晴らしさや凄さについて考えねばならない。そうすれば必ず、理性が考えた凄さを感性が感じたら「すごいなー」となり、本当にのめり込んでしまうという状態に自分をしていくことができるんだ。感じてこそ人生。価値を、意味を、素晴らしさを感じてこそ人生。考えただけでは行動に結びつかない。感じたとき行動が出てくるんだ。感動はまさにそういうこと。感じたら動く、感じたら肉体が動き始める。考えている間はじっとしている、動けない。感性が感じ始めたら動くんだ。もっともっと現実の仕事の中で、いろんなことの意味や価値や値打ちや素晴らしさを考える習慣をつけてもらいたい。そして、意味を感じながら何かをする。価値を感じながら何かをする。素晴らしさ、凄さを感じながら仕事をする。そういう習慣を身につけながら生きてもらったら、自分も幸せになってしまうし、会社自身にも大きな活力を生み出すことになっていくし、またお客さんを感動させることもできる。そういう力が自分に出てくるわけであります。仕事は惰性に流されてはならない。人間的に人生を生きるためには意味、価値を感じることが大事だ。値打ちや素晴らしさを感じてこそ打ち込める、命が燃える。是非そういうことを実践してもらいたいんですよね。**

**感性論哲学は観念論のように理想を語る哲学ではないんですよ。こうやったら、こうなるんだという実践哲学なんですよ。感性論哲学の話を聞いたら、あとはやるかやらんかなんだ。こうしたらいいと言っているんですから、やった人間は必ず結果が出る。やらなかったらどんなに良い話を聞いたって全然価値はない。是非今日の話なんかでも、一つひとつの項目を自分の生き方や仕事の仕方に当てはめて考えてみてもらいたい。そのことによって自分の生き方の質を向上させる、自分の仕事の仕方を向上させるということにしてもらいたいと願っております。今日は成功への鉄則というお話をさせてもらいました。どうもありがとうございました。**